

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500206		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム くめの里		
所在地	周南市大字久米字沢田1416-1		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町受理日	平成29年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があっても、自分らしく、生きがいをもちて生活できるように支援している。 そのために、日常的に家事作業やレクリエーション参加、散歩等を積極的に実施している。 また可能な限り、家族や地域の方との交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は三食とも、看護師と栄養士が管理された献立で、事業所で職員が交代で調理され、栄養バランスが取れたものを提供しております。行事に合わせた食事や弁当持参での戸外での食事、家族との外食の支援をされている他、利用者と職員が同じテーブルを囲んで、同じものを食べておられ、職員がいろいろな話題で利用者と会話され、食事が楽しみなものになるよう工夫されています。利用者は、好きなテレビ番組を視聴されたり、ゲームや体操、野菜づくり、水やり、草取り、窓ふき、掃除など、一人ひとりのできることをされたり、楽しまれたり、喜びや張り合いのある日々が過ごせるよう支援しております。利用者を担当されている職員や看護師、計画作成担当者(管理者)が中心になって、個別具体的な介護計画を作成され、支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念を作成し、事業所内に掲示すると共に、職員はその内容を周知し、介護を実践している。	地域密着型サービスとしての事業所の理念を、事業所内に掲示している。ミーティングなどで理念について話し合い、理念を確認して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方の受け入れを行い、関係性を保っている。	自治会に加入している。ハーモニカの演奏で来訪しているボランティアや、毎月、紙芝居ボランティアが来訪して利用者と交流している。近隣の幼稚園と合同でクリスマス会を開き、90人の園児が3回に分けて来訪し、歌や遊戯の披露やおしゃべりなど、利用者は触れ合いを楽しんでいる。幼稚園のひな祭りには、数人の利用者が参加している。周辺の散歩時に出合った人と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や、相談に来られた方に対して、認知症についての理解や施設の概要等を理解してもらえるように説明している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。	管理者が、前回の評価を参考にして、職員から聞き取りをしてまとめている。全職員での評価の取り組みをしていない。前回の外部評価結果を受けて、運営推進会議への家族の参加を得るため、請求書の送付時に運営推進会議の案内を全家族に送付して参加を呼びかけて、1～2名の参加があるなど、改善に取り組んでいる。	・全職員での評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している。	会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の取り組みや利用者の状況などを報告して、意見交換している。参加者から、プランターに野菜を植えたらという意見があり、キュウリやゴーヤなど、野菜づくりを利用者と一緒に行っているなど、意見を活かしている。全家族に会議の案内を送付して参加を呼びかけ、参加を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時に、情報交換している他、電話や直接出向いて、相談し助言を得たり情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換して連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施していない。 また実施せずに済むように努力している。 勉強会も実施している。	職員は法人研修で身体拘束について学び、正しく理解して拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。ユニット入口は時間を決めて開錠し、玄関は施錠していない。スピーチロックは、職員同士で注意があったり、管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し理解を深め、虐待が発生しないように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後勉強会に取り入れ実施していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施している。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時には、主任や管理者が利用者の近況を報告して意見や要望を聞いている他、電話で聞いている。毎月の請求書送付時に、利用者の生活の様子などの近況報告と写真を送付して家族に伝え、家族が意見を言いやすいように工夫している。家族からは、ケアに関する要望があり、その都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のミーティングを実施し、意見を反映している。	月1回の定例ミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。定例ミーティングの前に管理者会議があり、会議の内容を職員に伝えている。管理者は、日常の業務の中でも職員から意見や提案を聞いている。シート交換についての意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の実施と、日々の介護実践の中で経験を積めるように努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や法人からの指示で受講の機会を提供し、認知症介護実践者研修などを受講している。法人研修は、毎月1回(身体拘束、声かけ、虐待、看取り、利用者本位の介護等)実施し、職員は自主的に参加している。毎月、資格取得のための勉強会があり、働きながら資格が取れるように支援している。看護師の指導で緊急時の対応について学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を実施し理解を深め、虐待が発生しないように努めている。通じて、意見交換が行えるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に必ず、本人や家族の意見を聴取し、安心を確保できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に必ず、本人や家族の意見を聴取し、安心を確保できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に、必要な支援を見極められるようにアセスメントしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や、通院依頼等を通じて、家族の協力を得ている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡や、年賀状等を活用している。	家族の面会や親戚の人、友人、以前住んでいた近所の人などの来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状を出す支援、自宅周辺のドライブなどの支援をしている。家族の協力を得て、外出、外食、1日帰宅、法事への参加など支援している。訪問理美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努力している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。必要であればカンファレンスを行い、ケアプランに反映させている。	フェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日常の関わりの中で、職員が気づいたことや利用者の様子や言葉を記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴取したうえで、カンファレンスを行い作成している。	利用者を担当している職員が、利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見などを参考にして、仮の評価表を作成し、計画作成担当者や看護師が添削して、つくり直し、カンファレンスで話し合っ、利用者を担当している職員が個別具体的な介護計画を作成している。日々の実施記録を参考にして、評価表を作成してモニタリングしている。6ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、利用者を担当している職員や医師、看護師、家族が話し合っ、て見直しをし、介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、かかりつけ医との関係を築いている。	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている他、専門医等、他の病院の受診は、家族の協力を得ている。事業所では送迎の支援をしている。協力医療機関からは、2週間に1回の訪問診療がある他、緊急時や夜間は、医療連携体制があり、看護師に連絡して医師の指示で支援している。かかりつけ医と事業所は連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日実施している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	重度化や終末期に事業所のできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、看護師、職員等で話し合い、家族の同意を得て方針を決め、介護計画を変更して共有して支援に取り組んでいる。職員は法人研修で年2回、看取りについての研修を受講している。2人の看取りをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	勉強会を実施し、知識の習得に努めている。	事例が発生した時には、その時の勤務者で対応策等を検討して事故報告書に記録した後、管理者や看護師が検討して正式な事故報告書を作成して全職員で閲覧して共有している。必要な利用者には、介護計画に反映させているなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、看護師の指導を受け、出血などの応急手当やAEDの使い方、心肺蘇生の訓練など学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後、火災訓練と同時に災害訓練を実施し、対応力を身に付けたい。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜間、火災時を想定した、消火器の使い方、通報訓練、避難訓練を、利用者が参加して実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している。	職員は、接遇研修で学び、事例にそって利用者一人ひとりに適切な対応を考えて、利用者の尊厳を傷つけないように、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。	食事は三食とも、看護師と栄養士が管理している献立で、職員が交代で調理して、栄養バランスの取れたものを利用者に提供している。利用者は、テーブル拭き、お盆拭き、盛り付け、味見、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、ミキサー食、刻み食、トロミ食、おかゆなど形態を工夫して支援している。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べ、職員はいろいろな話題で会話したり、介助をしながら、利用者の食事が楽しめるよう支援している。弁当を持参して外出先で食べたり、行事に合わせた食事や家族との外食など支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	支援している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間はある程度決まっている。	入浴は毎日、13時から16時までの間可能で、利用者の希望や体調と合わせて、1日おきにはゆっくり入浴できるように支援している。入浴中には歌を歌ったり、職員との会話を楽しんでいる。特浴利用者が5名あり、交代で入浴できる支援や、利用者の状態に合わせて清拭や足浴などで支援している。入浴したくない人には、言葉かけに工夫したり、職員が交代して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実施している。	テレビ(歌番組、昭和史ドキュメント、日本昔話、動物番組、相撲など)視聴、DVD(歌)視聴、新聞や雑誌を読む、歌を歌う、カラオケ大会、編み物、お手玉、ぬり絵、折り紙、カルタ、百人一首、魚釣りゲーム、輪投げ、テレビ体操、嚙下体操、野菜づくり、水やり、草取り、窓ふき、カーテンの開け閉め、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、テーブル拭き、食器洗いなど利用者一人ひとりのできることやしたいことなどを把握して、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。	事業所周辺の散歩、季節の花見(梅、桜、バラ、つつじ、紫陽花、紅葉など)、ドライブ、初詣に出かけたり、家族の協力を得て外食をしているなど、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している。	リビングダイニングは明るく広々としている。2ユニットが同じ空間で中央が間仕切りしてあり、利用者は、お互いに行き来できる。壁面には、毎月、行事担当職員が季節に合わせた作品を飾って、季節感を採り入れている。テーブルや椅子、テレビ、ソファを配置して、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。キッチンからは、調理の音や匂いがしていて、生活感がある。温度、湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。	整理ダンスやテレビ、ハンガーラック、仏壇、衣類、鏡、化粧品、生活用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、カレンダーや家族の写真、行事の写真などを飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム くめの里

作成日：平成 29 年 6 月 15 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	評価の意義と活用について、全職員（パート勤務の者も含む）がその項目の内容等を理解し、全職員が自己評価を実施し、評価終了後はその結果を共有する必要がある。	今回の評価結果を全職員で共有し、今後の自己評価は全職員で実施する。	職員会議での自己評価の話し合い。 次のステップに向けての取り組みの開始。次回、外部評価前には全職員による自己評価の策定。	6ヶ月
2	35	事故発生時や緊急時に、全職員が初期対応・応急手当の手技を周知した上で確実に実践できるように、日頃からのトレーニングを実施しておく必要がある。	研修会だけでなく、日常の業務内でも緊急事態に備えた意見交換や、手技のトレーニングを実践する。	研修会の実施。 普段から、事故対応や緊急時対応の知識を得るための意見交換と、手技の実施訓練を実施する。	6ヶ月
3	36	災害発生時に地域の住民との連携が必須。地域の方と助け合えるような取り組みが必要。	災害発生時に地域の方と協力ができるようになる。	久米地区自主防災組織と連携し、有事の際にお互いに支援し合える関係性を構築する。 くめの里避難訓練や消火訓練の実施時に久米地区自主防災組織の関係者に出席していただく。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。